

令和4年度 福井県立武生高等学校（全日制） 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
学校業務改善のための取り組み	a 業務の効率化を図るとともに、週に1日のノー残業デーを設定する。	55分×6限授業の導入により、生徒の完全下校時間が19:00から18:30分と早まり、教職員も帰宅時間を若干ではあるが早めることができたと考えられる。	・校内ラン使用による会議を進める。また、No残業Dayにおいては、機械警備に入る設定時間を早めるなど、管理職内でも検討中である。 ・目標管理表に働き方改革の視点を盛り込んでいただく。
	b 平日1日、土日のどちらか1日を、部活動休業日に設定する。	部顧問会議で、平日と休業日それぞれについて、休業日を設けるよう申し合わせていたが、コロナ禍よりも活動が活発化する中、実際は休業日設定がゆるい状態となったと予想される。	・年度初めの部顧問会議に加え、折ある毎に申し合わせを徹底する必要がある。 ・月ごとの部活動計画の休業日計画を確認しながら徹底していく。
教育課程・学習指導等（教務部）	a 校内の授業研究体制を確立し、教材を工夫したり、ICTを活用したりすることによってわかりやすい授業による学習内容の定着を図る。	・ICTを使用した授業が浸透し、教材の共有も見られる。11月の公開授業では、多くの授業が公開され、県内外の教育関係者の参観があった。教科横断型の授業研究もなされるなど、わかりやすい授業研究に学校全体で取り組んでいる。	・ICTを使用した授業が浸透しつつも、従来からの黒板とチョークのみを用いた古典的な授業スタイルも見られる。教育課程のスリム化が進む中、授業時間（単位数）の長さ（大きさ）だけに頼らない、教材を教員間で共有し協働でICT化を含む授業改善を推進していく必要がある。
	b 学力向上チームを中心に、生徒の主体性を育み、思考力・表現力の向上をめざす授業改善を図る。	・教職員全体に、生徒の関心・意欲を高め思考力・判断力・表現力の向上をめざす授業改善に取り組む雰囲気が見られ、アンケートの数値もすこぶる高い。 ・観点別学習状況評価も学校全体で取り組み、評価方法を教科内で研究・共有することができている。 ・一方で、とくにベテラン教員の高校生学習状況評価の数値がよくなく、授業改善に取り組む必要があると考えられる。	・高校生学習状況調査を各々がしっかりと分析し、自分自身の改善点を見極め、授業改善に努めていく。また、授業公開数は少なくないが、他人の授業を見て自分自身の糧にするという風土が、学校全体には根付いていないので、ベテラン教員の授業参観や若手教員の授業公開など、さまざまな仕掛けで互見授業の機会を増やしていく。
	c 家庭学習の実態を把握し、面談や適切な課題を通して自学自習の習慣・態度を養う。	・保護者の学校への関心は高く期待も大きい一方、家庭学習の時間は、学校が期待するほど確保されず、アンケートでは、1・2年の家庭学習の数値が前年を10ポイントほど下回り、低学年の家庭学習意欲の喚起が早急に望まれる。	・特に低学年の間に定着させるべき基本事項を家庭学習時間でしっかり定着させるなど、1・2学年団と連携し、これまで以上に家庭学習の喚起を促しながら、自走する生徒像を教職員間で共有し、具体策を見いだしていく必要がある。
生徒指導（生活部）	a 集会やクラス等の場で継続的に人権尊重を啓発し、SNS等による過剰な連絡を生徒同士が自粛し合う風潮を、生徒会や保護者と連携協力して作っていく。	・97%の生徒が「人権を尊重している」、98%が「ネット上に他人を誹謗中傷する内容を書き込まないようにしている」と回答しているが、「夜9時以降はSNSでの連絡をしていない」生徒は33%に過ぎない。日常の些細な言動の中に、人権を侵害していたり、人を傷つけていたりすることがあることに気付かない生徒が多いことを表していると思われる。 ・98%の教師は人権教育を心がけていると回答しているが、生徒の77%はそう感じている一方で、残りの約20%が「人権教育が重視されていない」と感じている。	・生徒会を中心とした啓蒙活動の充実をはかるとともに、保護者の理解や協力が得られるような働きかけが必要である。 ・具体的にどのような言動が人権を侵害する行為となり得るのか、あるいは、同じ言動でも不快に感じる人と感じない人がいる場合があるということを考えさせるプログラムを、LH等に組み込んでいく。 ・対人的な生徒の言動に注意し、心が傷付けられ苦しんでいる生徒がいないか目を配り、生徒が相談しやすい人間関係を築くよう、全教員が心がける。 ・Chromebookを活用したアンケート調査などを積極的に挙げる。
	b 挨拶推奨、校則遵守・マナー向上指導の頻度を増やし、生徒がその大切さを理解して挨拶や正しい服装等ができるよう指導する。	・97%の生徒が「武高生としてふさわしい」頭髪・服装ができたと答えている。「規定を守らせる指導ができた」教員が60%と減少した。 ・生徒の26%が、歩きスマホ、自転車スマホを「時々orよくする」と答え、前年と同じであった。 ・校内携帯電話ルールを「時々orあまり守らない」生徒は昨年比微減の4%であった。違反を指導された数も月に0~4人程度と、昨年と同程度であった。	・「生活部だより」を活用し、全教員が同じ基準・意識で指導に当たれるよう工夫する。 ・服装に関しては、違反でだらしない格好をしていても注意されずに済んでしまうことがないように、どういう服装がだらしないと見られるかを根気よく教え、違反者を指導する。 ・歩きスマホ・自転車スマホについては、その行為が自己を危険にさらすだけでなく、他者に迷惑をかける、危害を及ぼす可能性のあることに気付かせるよう、真剣な啓蒙を持続する。
	c 一定時間内で部活動に集中し、学習と両立できるよう、担任や顧問が生徒の実状をきめ細かくつかみ、サポートする。	・コロナ禍の中での活動制限の影響が本年度も続いた。部活動加入率はアンケート時85%であった（変化なし）。部活動等と学業を両立させる努力が「できた」という生徒は昨年比微増の72%。	・入学当初に高校3年間に対する目的意識・覚悟を持ってよう指導を工夫したい。 ・完全下校が18:30となるなどの変化を機に、「両立」について、生徒・部顧問・担任・教科担任が、連携していけるように工夫する。
進路指導（進路部）	a 個人面接やロングホームを通して、生徒の自己意識を育成し、早期の進路目標設定を図る。きめ細かな初期指導や個々の進路希望に応じた課外や講座を実施し、国公立大学に合格する確かな学力を培う。	・1年62.9(55.9；括弧内は昨年)％、2年65.6(67.9)％、3年87.1(82.3)％、全学年71.9(69.0)％の生徒が、将来の進路希望を持っていると答えている。2年生で若干数字を減らしているものの、全体では70%を上回っている。学年が上がるごとに希望が固まっていくものだろうが、こだわればこだわるほど時間がかかるものでもある。保護者の80.8%が、生徒が明確な進路目標を持っていると回答している。 ・1年78.2(76.4)％、2年68.2(68.2)％、3年77.5(82.3)％、全学年74.8(76.1)％の生徒が、課外、特講で学力向上指導が十分行われていると答えている。教職員90.7%、保護者80.9%で目標の70%を上回った。	・部活動の定休日を設け、放課後担任の個人面談をする時間を確保する。 ・今後も継続して学力向上に努める。 ・生徒に進路について考えさせる上で有効な掲示物を学年会を通じて生徒に配信する。 ・2年次の学習時間の確保と、後半からは、文系は英語、理系は理科の学習に意識して取り組ませる。また、すべての生徒が時間をかけて模試の見直しを行えるよう、具体的なしなかけを用いて指導する。
	b 進路講演会や大学訪問等を通して、本人および保護者の進路意識を啓発し、高い目標を持って学び続ける集団作りを行う。特別講座や個別指導を通して、難関大を突破する高い学力を培う。	・1年82.9(77.3)％、2年77.3(74.9)％、3年80.7(76.2)％、全学年80.4(76.1)％の生徒が、進路関係の行事（進路講演会、大学訪問、学部学科探究、先輩と語る会など）で、高い志望を持ち続ける参考になっていると答えており、目標の70%を上回った。教職員94.4(95.1)％、保護者80.3(77.2)％とともに目標の70%を上回った。 ・3年の大学入学共通テスト5教科総合偏差値（得点調整前値）は52.7(52.5)で、昨年より微増。文系は53.7(54.1)、理系は52.1(51.5)で、文系が若干減らしている。（今学年から探究科、8クラス体制が始まっているので、数字の比較には注意を要する。）	・今年度も過去2年間同様、Web会議サービス等を利用して、例年の行事を行うことが多かった。次年度も継続して進路関係の企画を続ける。大学訪問は、規模を考慮しながら実施の方向で考えている。 ・3年の大学別模試は、学習のポイントを見つけるためのものと考え、できるだけ志望校を下げないよう指導する。また、志望校が高すぎる生徒には、冷静に現状を判断させ、現実的な目標大学を個人面談で提案する。 ・文理選択を適切に行えるように、面談を密に行い、生徒の興味関心だけでなく適性を見極め、慎重なアドバイスを行う。 ・進路や受験に関して、生徒へ発信している情報を保護者が閲覧できるように配信する。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
保健管理 (保健部)	a 身体計測の統計データの公表や各種検診の事後指導の徹底、丁寧なカウンセリング活動、健康に関する情報の適切な発信を通じて、生徒の心身の健康管理意識の高揚を図る。	生徒の健康意識は92%で、昨年度の83%、一昨年の79%からさらに向上した。コロナ禍で健康に関する意識は高まっている。一方、虫歯の治療状況は40%台と低い。 教育相談・保健室利用では、学業不振や友人関係などの悩みが蓄積して心の不調に陥っている生徒が目立っており、増加傾向にある。 新型コロナウイルス感染拡大防止では、正副担任、教科担当の協力を得てマスク着用、教室の換気、黙食指導を徹底し、校内での感染拡大は見られなかった。	・コロナ禍は4年目になるが、収束のめどは立っていない。その中で位置づけが2類相当から5類に変更になることは、多くの生徒が集まる学校にとってはマイナス面も多い。学校や個人に委ねられる部分が多くなるので、対応が困難であり、個々の健康意識の高さが問われる。 ・精神面での不調に早期に気づくことが重要である。学級担任や教育相談および保護者、関係部署と連携し、迅速な対応を行っていききたい。
	b 生徒にとって一番身近な美化活動である毎日の清掃活動とゴミの分別の徹底を図り、生徒の主体的な活動が快適な学校環境を実現することを意識させる。	清掃活動について生徒89%、教職員91%が意欲的に取り組んでいると回答している。保護者からの評価は79%と昨年度の72%から向上した。ゴミの分別については、生徒94%、教職員74%が適切に分別していると回答している。印象としては、清掃活動、ゴミの分別ともにアンケート結果よりも低いように感じる。	・清掃活動やゴミの分別を充実させることで学習環境を整え、奉仕の心、循環型社会を実現させる意識を高めた。 ・生徒の委員会活動(美化・保健)を通して、校舎内外の安全・衛生点検を徹底し、より良い学習環境の整備につなげてたい。
保護者との 連携・防災 (庶務部)	a P T A各会議・各部会の活動とおして全保護者にP T A活動方針の理解と協力を得る。	研修部主催の1年生講演会、進路部主催の2年生講演会を開催し、生徒が自分の世界観を広め「人間力」を高める一助になる活動ができた。また、第2回代議員会・マナーアップ運動・環境美化活動では多くの保護者の参加が得られ、コロナ禍でも充実した事業をおこなうことができた。工夫が増した広報紙・学校祭DVDの作成等、保護者への魅力的な情報発信も好評であった。	新体制の方針・計画のもと、コロナ禍であっても工夫しながら事業は着実にやりたい。今年度活動の成果を吟味し、引き続き生徒に対して必要な支援とは何かを模索しつつ、保護者と教職員が協働していく。また、本来行うべき会員相互の研修や親睦活動を促し支援する。
	b 避難訓練実施に際し、生徒の防災意識が高められるような教材等を準備する。	コロナ禍のため、全学年一斉での防災訓練はできなかったが、分散型での避難経路確認活動を実施できた。一方、防災テストは全学年で実施でき生徒の防災意識を涵養することができた。リノベーションによる避難場所・経路の変更も確実に全体に周知できた。	全学年一斉での防災訓練を実施したいが、コロナ禍の状況次第では分散型の避難経路確認活動もふくめて検討し、訓練計画を立てたい。リノベーション工事中の防災に対しては、避難経路や避難方法を再度見直す。水害における防災訓練を実施し、今まで以上に防災に対する意識を高め、適切な避難方法を理解する。
	c 生徒が充実した学校生活を過ごせるよう奨学金、購買等の充実を図る。	奨学金関係の情報認知度が全体で13Pアップと大きく伸びた。具体的には1年生68(40)%、2年生54(43)%、3年生82(80)%であった。〔()は昨年度の数字〕 購買前に新設した掲示板(奨学金コーナー)への丁寧な掲示案内をベースに、3年生へはGoogleクラスルームで、1・2年生へはクラスへの紙案内(担任に読んでもらうことを要請)での情報提供の効果が大きかったと考察している。	まずは入学式後、PTA入会式の連絡で、奨学金掲示板の場所や、機に応じたクラスへの周知案内方法を説明する。加えて、購買の営業に関することも連絡する。同様のことを1年生生徒には新入生オリエンテーションで説明する。 奨学金は、引き続き掲示板へのわかりやすい掲示案内と、3年生へのGoogleクラスルームでの情報提供に努める。
図書広報活動 (図書広報部)	a 本の紹介・図書館の展示・教養講座・朝読書等の取り組みを通して、読書への啓発活動を行い、生徒の読書への興味、関心を深める。	・読書への興味関心があると回答した生徒は58%で、昨年度の62%から低下し、判定基準の60%を下回ったため、取り組み等の再検討が必要である。子供が読書への興味関心があると感じている保護者の割合は生徒と比べさらに低く、一昨年度52%、昨年度51%、今年度50%と低下傾向がみられる。 ・教員の80%が日ごろの読書への指導は適切に行われていると考えている。ただ、一昨年度の82%、昨年度の87%と比べ、80%へと低下した。	・読書習慣のあまりない生徒に対して、図書委員の生徒を中心に、面白い本を紹介していく取り組みを進める。 ・レイアウトなど、閲覧室の雰囲気をもっとよくなるよう務める。 ・今年度から、期末考査後に実施している読書タイム時に、図書委員から「おためしBOOK」と称して、1人に1冊ずつ図書館の本をランダムに貸し出すようにした。楽しみにしている生徒もおり、読書に興味関心をもつ生徒が増えることを期待したい。
	b オープンスクール、学校説明会等の実施や わかりやすいパンフレットやホームページの作成により、学校教育活動の広報の充実を努める。	・オープンスクールでは、参加した中学生の99%が学校の内容を理解できたと回答しており、実施した成果があったと考える。 ・ホームページがわかりやすいと回答した生徒は61%(昨年度55%)、保護者は66%(昨年度60%)で、どちらも昨年度と比べて増加した。昨年度目標に届かなかった生徒の割合も目標の60%に達している。日々改善している成果が表れていると考えられる。中学生向けのページも充実させた。	・オープンスクールは、本校の生徒ボランティアを使って運営しており、中学生とほぼ同世代の生徒からの説明やアドバイスは、参加者に魅力的なものとなっていると考える。 ・ホームページの重要性が高まっているため、わかりやすく、タイムリーに伝えることができるよう日々改善しており、今後も改善を続けていく。
理数教育 の充実 (SSH・ 探究進学科)	a SSH事業 本校SSH事業の成果を、地域の小中学校、高等学校、大学等へ発信することにより、理数教育の拠点としての役割を果たす。	学校外部での発表について、下記のとおり合計で29本であり、目標を達成できた。また、SSH生徒課題研究発表会(全国)での発表では、奨励賞(全国7位に相当)を受賞した。 1 福井県合同課題研究発表会 2 越前市防災士の会 3 藤島高校Global Science Leadership 4 プレゼン甲子園	今年度の外部での発表も、学校関係が多かったが、発表本数は目標を上回ることができた。次年度は各種学会での発表も視野に入れ、生徒の意識を高めるようにする。
	b 探究学習に取り組むことで生徒の科学的思考、創造性、論理的な思考を育み、自分の考えを発信する力を育成する。	探究科クラスに満足している生徒の割合が、探究科合計で90%であり、目標が達成できた。 また、教職員や保護者からの視点でも生徒の課題研究・探究学習に関する興味関心が高まったと感じている割合がそれぞれ94%、75%となり、昨年度から向上している。	探究科全体で熱心に探究学習に取り組む姿勢が見られる。今後もこの姿勢を大切に、科学的・論理的思考や創造性を育んでいく。そして、最終的には発信する力を育成していく。
心の環境整備 (いじめ対策 委員会)	a 担任等による面接指導、学習の個別指導および部活動指導などを通じて、生徒と心を通じ合える関係を築く。	・個別に係わる機会を週2回以上持つことができた教員は72%と昨年に続いて減少し、「ほとんど持てなかった」「全く持てなかった」という教員が、28%と増加した。	・行事の見直し、精選に取り組んでいるが、業務内容の改善、工夫をさらに進め、授業以外で生徒と関われる機会を増やしていく。また、生徒に関する情報を職員間で共有し、指導内容の充実をはかる。
	b 振り返りチェック票の活用や保護者・外部機関との連携を図り、いじめの早期発見・早期解決に努める。	・振り返りチェックをタブレットを利用した実施とした。 ・「指導方針」のなかの「特定の教員が抱えこむことなく情報共有し、組織的に対応する」ことをSWなどで繰り返し要請した。振り返りチェック票等の情報を十分生かせなかったという教員が1名あった。	・些細と思われることも、情報を共有しようという認識を教員間で徹底する。 ・サポート班がより柔軟かつ迅速に対応できるようにする。 ・職員、委員会、外部関係機関の連携をさらに密にして、事案対応だけでなく、未然防止にも力を入れていく。